

2016(平成28)年度予算について

学校法人 桃山学院
理事長 水谷和生

2016(平成28)年度学校法人桃山学院の予算は、予算会議の議を経て、2016年3月22日(火)開催の評議員会後の理事会で承認され成立いたしましたので、ここに予算の概要と予算書類の公開を以下のとおり行ないます。

主な事業予算の概要

[キャンパス整備]

(1) 和泉キャンパス新棟建設

第2号基本金に30億円組入れのキャンパス整備計画として、2017年度に先端教育棟(仮称)竣工を予定しています。そのため、工事費用のうち10億円を2016年度工事支払い分として計上します。

(2) 和泉キャンパス施設設備中長期保全計画

移転後21年が経過した和泉キャンパスにおいて、既存施設設備の中長期的な視点からの保全計画に基づき、そのための必要経費を計上します。

(3) 「魅力ある和泉キャンパス創り」の推進

和泉キャンパスの保全計画とは別に、学内の諸施設設備の改善によるイメージアップを行い、学生や入学志願者等に対して「魅力ある和泉キャンパス創り」を推進します。

(4) 昭和町キャンパス施設設備中長期保全計画

昭和町キャンパスにおいて、既存施設設備の中長期的な視点からの保全計画に基づき、そのための必要経費を計上します。

[危機管理体制の整備・強化]

(1) 災害発生時に対する対策の整備・強化

災害発生を想定して、当該時に必要とされる備蓄品・装備品の購入費用や訓練実施に係る費用、また、危機管理上配慮が必要な箇所への防犯カメラおよび緊急呼び出し装置設置費用等を前年度に引き続いて計上します。

[教学条件の整備・充実]

(1) 学習支援センターの充実

段階的且つ持続可能な「能動的学習」の機会を担保しつつ、社会・地域からの要請に応えうる「学士力(「社会人基礎力」も包括)」の涵養を目指します。

(2) 情報インフラ整備

2011年度に更新した学内情報ネットワークシステム(SAINT)の安定運用をはかります。この新システムは機能の充実だけでなく、コストパフォーマンスに優れたもので、この安定運用を行なうことにより、学内情報流通の更なる効率化と学生サービスの一層の向上をはかるとともに、経費節減につとめます。そして、事務システムについても安定運用を行います。

(3) 国際化の推進

「世界の市民」の育成のため、国際交流を推進・充実させ受入・派遣留学生への支援を強化するとともに、グローバル社会で必要となる能力を身に付けるための取り組みを行います。

(4) 就業力育成支援事業

本学経営学部の「実践教育による「社会人力」育成プログラム」の運営費を計上します。

(5) 大学同窓会記念事業

学院創立125・大学開学50周年記念事業寄付金としていただいた大学同窓会よりの寄付金を財源に、「桃山学院大学同窓会周年事業寄付金取扱要領」に基づく事業費を計上します。ここでは、「入学前教育プロジェクト」、「キャリアアップにつながる自己成長プログラム」、「アジア・ビジネス・キャリア・プログラム」、「海外インターンシップ」、「学生リーダー育成プロジェクト」等の事業を実施します。

(6) 英語アセスメントテスト

2015年度に引き続き、学生の進捗状況を確認するため、英語学習外部アセスメントテストを実施し、本学の英語教育の効果を測定するとともに、英語教育の改善に資するものとします。

[学生生活支援の充実]

(1) 梅田サテライト

2014年11月に本学学生・卒業生の就職活動支援等のため、学外オフィスとして梅田に開設された「梅田サテライト」の運営費を計上します。

(2) 通学バス路線の充実

2013年に新設した「和歌山ライン」および「富田林ライン」と既存のライン(「和泉中央ライン」、「泉大津・府中ライン」、「金剛ライン」)の5ラインの運行により学生の通学の利便性をはかり、就学支援の充実につとめます。

(3) 就職支援

キャリアセンターにおいて、各種セミナーおよび就職合宿の実施(年3回開催)などを通して、職業意欲の高揚をはかるなど就職支援体制の強化充実をめざします。また、社会に出るにあたり必要な「社会人基礎力」の養成をはかるため、インターンシッププログラムやPBL(課題解決型授業)などキャリア教育の充実につとめます。

(4) 入学試験成績優秀者対象奨学金

2012年度より開始された「入学試験成績優秀者特別奨学金制度」を2016年度新入生（対象入試制度：公募制推薦前期、公募制推薦後期、A方式3教科型、C方式前期3教科型、D方式スタンダード方式2教科型）に対しても継続して実施します。また、2015年度より「地方奨学金」（対象入試制度：A方式3教科型）を新設し、経済支援策の充実と優秀な人材の確保につとめ、学内の活性化をはかります。

(5) キャンパスコミュニティ形成支援

学生生活において、仲間作りを行ったりキャンパス滞留時間を増やすことにより、帰属意識の醸成を促進するとともに学生の孤立化を防ぎ、またキャリア形成の一助とするため、昨年度に引き続き「ひとり暮らしの料理教室」、「プロジェクトアドベンチャー」、「人生すごろくゲーム」等種々のプログラムを実施します。

[スポーツ振興]

(1) 特別スポーツ強化

社会から注目度の高い複数のチームスポーツ種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生の本学への帰属意識の向上をはかります。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールします。

[命の教育]

(1) AED講習をはじめとする「命の教育授業」への取り組み

昭和町キャンパスの中学校および高等学校において、AED講習を実施するなど「命の教育・心肺蘇生法の授業」を積極的に推進します。

[地域づくりの推進]

(1) 地域貢献・連携の強化

本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」における学生を中心とするボランティア活動や和泉市との共催による「ふれあいニュースポーツ」等の活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめます。

[ボランティア活動の推進]

(1) 東北ボランティア

東日本大震災以降行っている被災者支援のためのボランティア活動にかかわる費用を計上します。

[財政基盤・戦略基盤の強化]

(1) 特定資産の整備・拡充

財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当特定資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行います。

(2) 中期経営計画の実施

中期経営計画に基づき諸施策を実施するとともに、その進捗状況の点検により、適宜調整・見直しをはかることで、財政基盤の安定・強化につとめます。

資金収支予算について

資金収支予算書は、予算編成を通して当該年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。2015年度補正後予算額との比較で示せば次表のとおりです。

資金収支予算比較総括表

(単位：百万円)

項 目	2016年度予算額	2015年度補正後予算額	増 減
前年度繰越支払資金	6,274	6,359	85
資金収入	11,598	11,640	42
資金支出	11,290	11,725	434
翌年度繰越支払資金	6,582	6,274	308

<注> 端数処理(百万円未満を四捨五入)の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように資金収入につきましては、合計で4,200万円減の115億9,800万円を計上しました。これは、補助金収入の増、「キャンパス整備計画」の実施にともなう第2号基本金引当特定資産の一部取崩しによる収入増(その他の収入)などがあったものの、大学の「教育の質保証」のための入学者数抑制策の継続による学生生徒等納付金収入減、金利低下による受取利息(受取利息・配当金収入)減、退職者数減による財団交付金収入(雑収入)減、寄付金収入減などの減収要因が増加要因を上回ったことが主な要因としてあげられます。

一方資金支出では、合計で4億3,400万円減の112億9,000万円を計上しました。これは、「キャンパス整備計画」における施設関係支出の増があったものの、退職者数減による人件費支出減、特定資産繰入支出減による資産運用支出減に加え、経費の見直しによる教育研究経費支出および管理経費支出が減少したことが要因としてあげられます。

その結果、翌年度繰越支払資金は3億800万円増の65億8,200万円を見込んでいます。

事業活動収支予算について

事業活動収支予算書は、予算編成を通して当該年度の事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、当該年度に基本金に組み入れる額を控除した諸活動に対応する全ての事業活動収入と事業活動支出の均衡状態（経営状態）を表す書類です。2015年度補正後予算額との比較で示せば次表のとおりです。

事業活動収支予算比較総括表 (単位：百万円)

項 目	2016年度予算額	2015年度補正後予算額	増 減
事業活動収入	10,110	10,484	374
事業活動支出	10,041	11,439	1,399
基本金組入前当年度収支差額 ()	69	955	1,025
基本金組入額	92	771	679
当年度収支差額 (+)	23	1,726	1,703
前年度繰越収支差額	2,125	3,750	1,624
基本金取崩額	0	102	102
翌年度繰越収支差額 (+ +)	2,103	2,125	23

<注> 端数処理（百万円未満を四捨五入）の関係で合計額が合致しないことがあります。

以上のように事業活動収入については、3億7,400万円減の101億1,000万円を計上しました。これは、経常費等補助金および手数料の増収額を学生生徒等納付金減、寄付金減、雑収入減（退職者数減による財団交付金減）、受取利息・配当金減などの減収要因が上回ったことによるものです。

一方、事業活動支出では、固定資産（建物・構築物・車両）における残存価額の見直しにより、2015年度に耐用年数が到来している資産について残存価額の一括償却を実施したことに伴い2016年度予算では減価償却額が大幅減となり、退職給与引当金繰入額減による人件費減もあいまって13億9,900万円の減となり、合計で100億4,100万円の計上となりました。

その結果、基本金組入前当年度収支差額では、6,900万円の計上となり、10億2,500万円の増となりました。

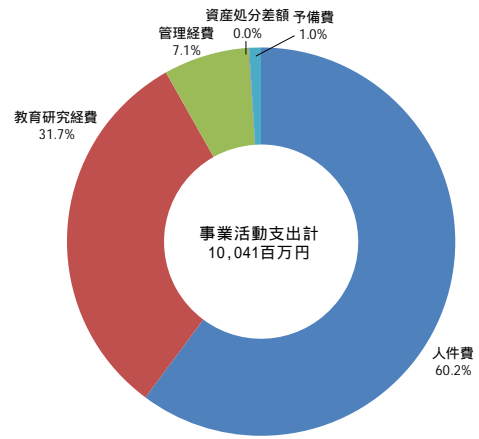
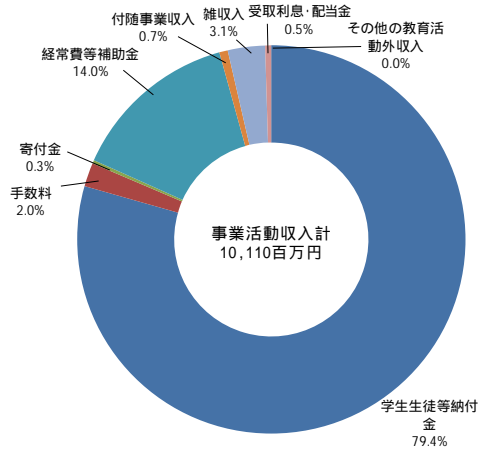
なお、基本金組入額は6億7,900万円減の9,200万円を計上しました。その主な中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な資産取得のためのものとなります。

また、第2号基本金については、「キャンパス整備計画」の実施にともないその一部である10億円を第1号基本金へ振替いたします。

これらの要因から2016年度予算では、当年度収支差額は2,300万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は21億300万円の収入超過となる見込みです。

事業活動収入の部合計 101 億 1,000 万円

事業活動支出の部合計 100 億 4,100 万円



2016(平成 28)年度 資金収支予算書

2016(平成 28)年度 事業活動収支予算書